

第5回認証産業活用の在り方検討会

2024年12月9日
一般財団法人日本規格協会 (JSA)
中川 梓

JSAの今後の取組（第4回検討会 2024.04.04）

		支援機関における今後の取組	
		提示された論点に対する課題認識	今後の対応
一般財団法人日本規格協会（JSA）	①規格開発段階からの支援団体の関与 …規格開発段階で、適切な認証スキームの検討が行われるべきではないか。その上で、開発段階から「必要な認証の知見」が参画する必要があるのではないか。		<ul style="list-style-type: none"> • 認証に関しては、既に関連の国内審議団体を担当。 • 一部の規格開発には既に認証機関・認定機関が参画しているが、「認証スキーム」の検討が行われるわけではない。 • 規格開発が始まる前から検討を行うなら、標準化交流プラットフォーム（下記）が活用できる。
	②情報提供（海外法規、規格に関する状況、等）、研修への期待 …個別の認証について対応可能な人材はいても、 認証スキームの設計・運営を幅広く担えるような人材 が存在しない。		<ul style="list-style-type: none"> • 個別の認証だけでなく、認証スキームに関する知見が得られるような研修の実施について、関係者とも協議しつつ検討する。 • 情報サービス提供の検討を行う（認証事例、関連規制などの調査）
	③認証ビジネスのエコシステム構築 …特定のテーマに関する認証の全体像を考えるうえで、産業界・認証機関等、関係者が 一堂に会するような議論の場 が必要。		<ul style="list-style-type: none"> • 標準化交流プラットフォームを、下記等に活用するため、関係者とも協議しつつ検討を進める - 個別の規格開発の議論と並行して、認証の可能性の議論 - 標準化の優先分野における認証の可能性の議論

支援機関としてのJSAの取組み

◆規格開発

- CASCOをはじめとする関連の国内審議団体を運営
- 様々なタイプの規格/基準開発の支援(スタンダード・コンサルティングセンター)

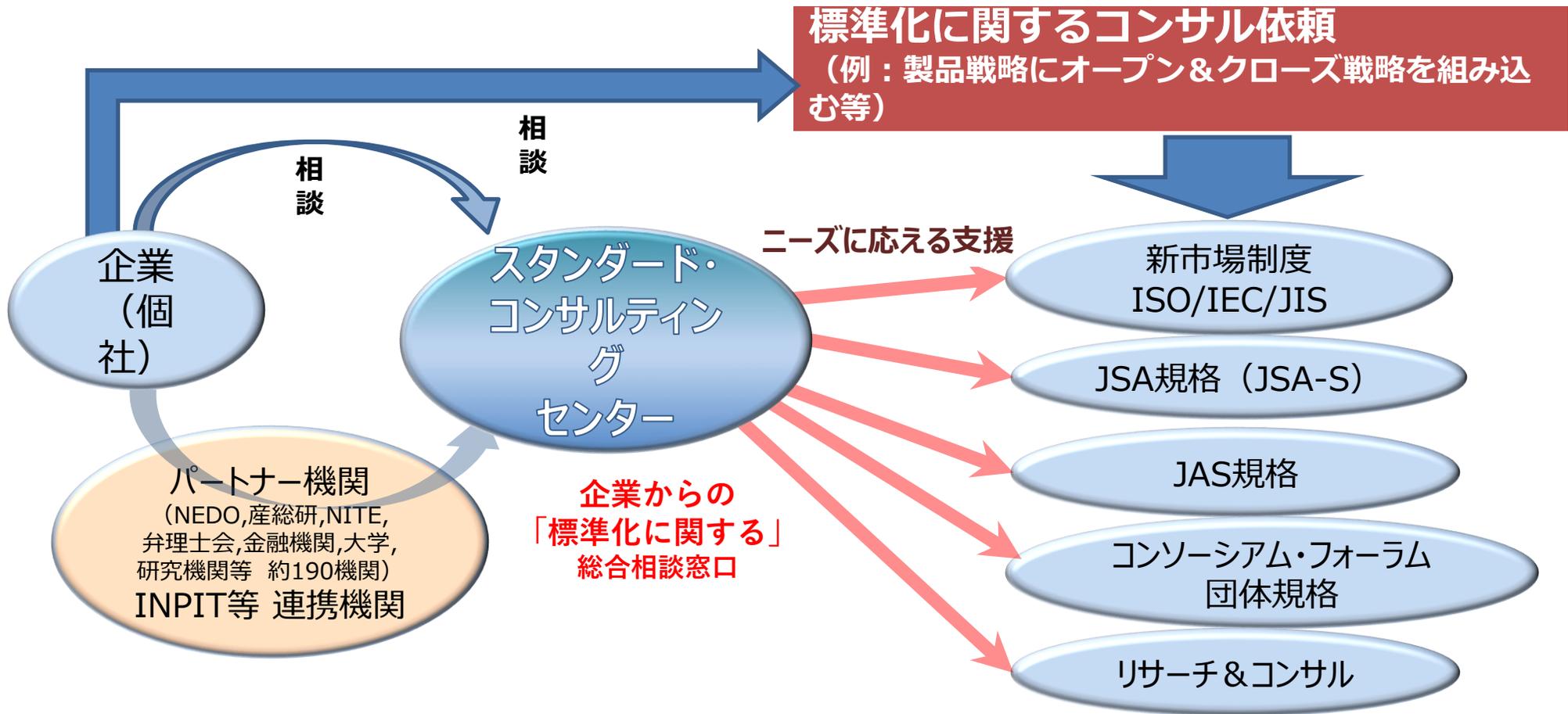
◆情報提供、研修

- 標準化情報提供サービス (グローバルリサーチセンター)
- 標準化人材育成講座

◆エコシステム構築

- 標準化交流プラットフォーム

スタンダード・コンサルティングセンター



JSAグローバルリサーチセンター 標準化情報提供サービス ~グローバルビジネスをサポート~

ご利用シーン



リファレンス

- 関連規格のリストがほしい
- 規格開発のスケジュールが知りたい
- 動向を把握しておきたい規格のリストをブラッシュアップしたい



リサーチ

- 標準化動向について概要を把握したい
- ビジネスのフィージビリティスタディーの一環として標準化動向を含めた分析をしたい



アドバイザーリー・コンサルティング

- 自社の技術戦略に沿った、標準化活動を行い、ビジネス拡大・創出をしたい
- 業界のガイドライン策定や認証に関連する事業を構築したい

✔ これまでの事例（一部）

- 医療関連サービスに関するISO、IEC、GB、JISも含めたリスト作成、全体関係のマッピング
- ある工業製品の関連規格リスト作成、規格関係のマッピング (ISO、ANSI、JIS、SAE)
- ある電気製品に関するISO、IEC、JIS、欧州・米国の法令等調査
- ロボット製品に関係する規格の収集、日本、欧州、米国の標準化動向、規格関係のマッピング
- 環境関連規格の標準化の現状と将来予測についてレポート
- 自社で認証取得している規格の最新状況についての定期的（年間）ウォッチ
- 日本農林規格の制定・国際化調査委託事業（ルール形成・標準化が有効な分野の分析・整理等）
- 企業をはじめ、経済産業省、国土交通省、農林水産省、厚生労働省、国立研究所など実績多数



リサーチレポート
公開中

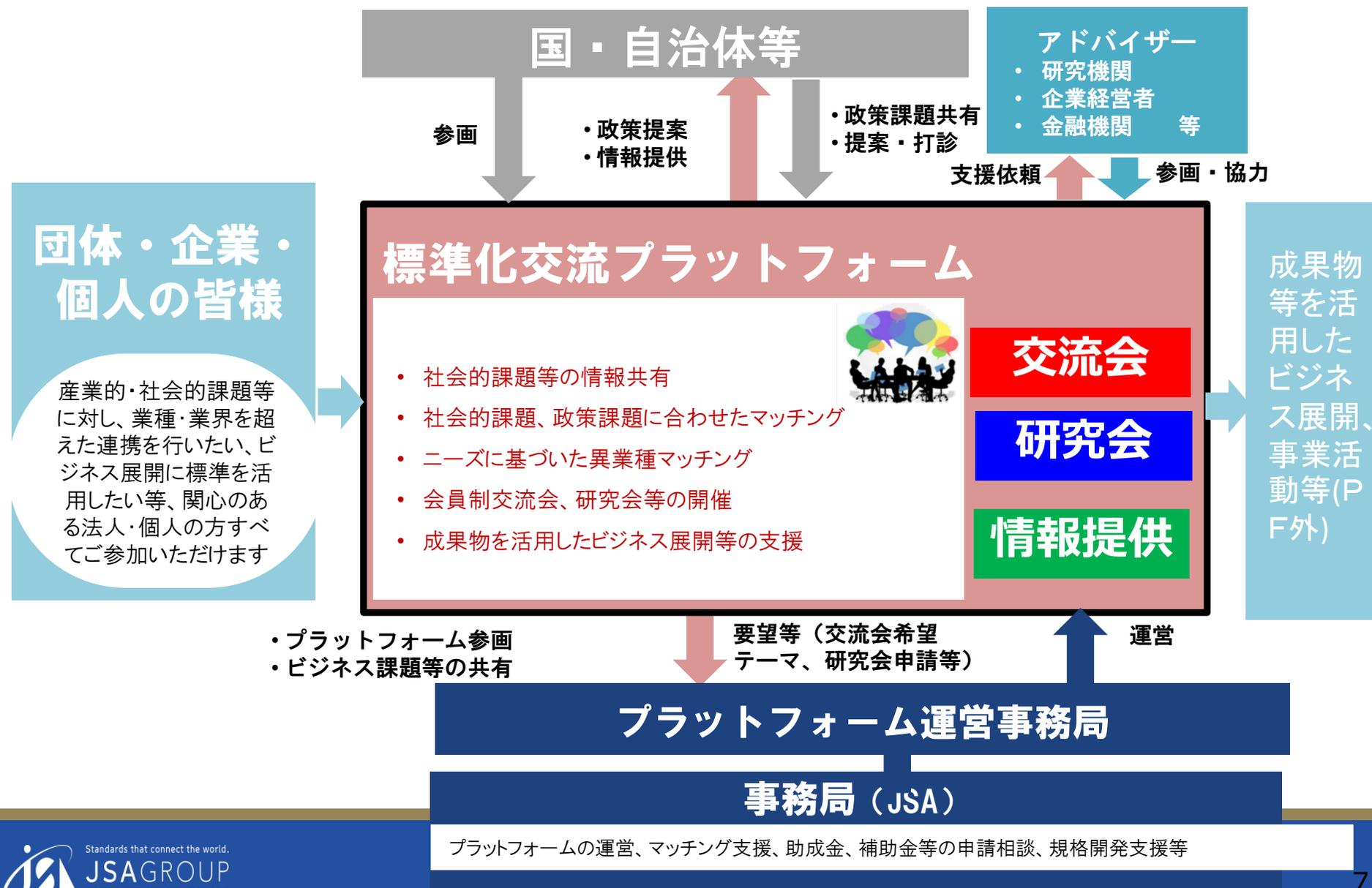
標準化人材育成

JSAは、以下の企業向けの研修、資格制度を提供

- ISO/IEC国際標準化人材育成講座（ヤンプロ）
 - 年3回 4日間 20名/回
 - 2012年度開始、累計受講者数551名、平均年齢39.9歳
- ルール形成戦略研修
 - 年2～3回 20-30名/回 企業内で経営戦略、事業戦略等に携わっている方向け
- 国際標準化研修
 - 初級、中級、上級その他、企業の要望に応じたオーダーメイド研修（3～7団体/年）
- 規格開発エキスパート養成標準化セミナー
 - 導入講座（戦略的標準化活用基礎講座）年2回 1日間
 - 専門講座（規格開発エキスパート講座）年2回 4日間
- 規格開発エキスパート登録
 - エキスパート登録数351

2024年「標準化人材チーム」を設置。アカデミアとの連携、エキスパート活用等に取り組む予定

標準化交流プラットフォーム



共通課題への対応

▶ グリーン、デジタル、人権といった分野における認証の重要性も増している中、こうした分野における認証スキームの構築や活用に向けて、各主体はどのような取組を行うべきか。

【今後の対応】

- 
- ・テーマごとに産業界と認証機関・認定機関で連携しながら議論する場の構築
 - ・「認証産業と産業界の連携事例」のモデルケースとして、具体的なパイロットプロジェクトを実施
 - ・認証の好事例等について、事例集・カタログの作成
 - ・日系認証機関の位置付けと今後の取組について、議論の深化

(中間整理より抜粋)

今後に向けて

認証スキームの構築・活用に向けて

- ▶ **パイロットプロジェクトの実施**
 - ・「認証産業と産業界の連携事例」のモデルケースとして
- ▶ 毎年、何らかの認証スキームの構築にかかる案件が動いている状況を創り出す
- ▶ 日本の認証機関の位置付け、コンサルティング行為の範囲明確化

(中間整理より抜粋)

そもそも…

認証産業を活用する目的は、「グローバル市場」獲得の手段としての「認証」の活用

「認証」が活用されること = 広く社会に受け入れられること / 必要とされること

インフラ的に考えると、例えば：

- 取引条件に採用
- 規制の枠組みの中での活用
- ……

コンテンツ的には：

- 社会的なニーズがある（例えば、製品の信頼性向上）
- 社会課題の解決をはかるもの（例えば、省エネ、リサイクルへの対応）
- ……

問題意識

- 国外で構築されるルールに対応する認証スキームを検討するのもよいが（パイロットプロジェクトの対象）、
 - 広く社会に受け入れられる/必要とされるスキームを設計することを考えるべきではないか、またその能力を身につけるべきではないか
 - 国際的に通用する国内インフラの整備が必要ではないか
- 「認証産業と産業界の連携」の切り口だけでよいのか
- 既存の認証スキームの見直し/活用も考えるべきではないか（例えばJIS認証制度）

参考：認証スキームの例

スキームオーナー	スキームの例
規制当局	欧州：CEマーク制度 国内：JISマーク制度、JASマーク制度、薬機法登録認証制度、他
国際機関	<ul style="list-style-type: none">• OIML-CS制度• IAF/ILACの認定制度• IEC/CAB：IECEE、IECQ、IECEX、IECRE
CAB/SDO	<ul style="list-style-type: none">• UL、ASTM• BSI：Kitemark
産業団体	国際： <ul style="list-style-type: none">• GFSI及びGFSI承認認証プログラム• IATF• IAQG• Textile Exchange 国内：産業団体
個社	小口保冷配送サービス（ISO 23412）

参考：認証スキームとはどのように作られる？

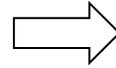
誰がゴールを設定？

スキームのゴール/目的

- 社会的な要請に応える
- 市場のニーズ/期待を満たす
- 取引条件を満たす
- 差別化/ブランド化をはかる
-

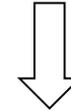
誰がスキーム
オーナーになる？

規制
国際標準
国家標準
業界標準
.



期待/ニーズの明確化

- 製品特性
- 機能
- 性能
-



実証方法の設定

そのスキームは価値、効果を持つか

- スキーム開発/運営のコストにみあった価値を提供できるか
-

国際標準
国家標準
業界標準
.

期待/ニーズを満たしているか

- 証明が必要か否か？
- 証明は可能？
- 証明の信頼性の度合いは？
- 既存の手法を使える？
- コストは？
-

参考：認証スキームとは？

適合性評価スキーム

適合性評価の対象を規定し、規定要求事項を特定し、
適合性評価の実施方法を提示する一連の規則及び手順

ISO/IEC 17000:2020 (JIS Q 17000:2022) 4.9

適合性評価の対象(4.2)：規定要求事項が適用される主体

規定要求事項(5.1)：明示されたニーズ又は期待

手順(5.2)：活動又はプロセスを実行するために規定された方法